



棚田で美り、
浜ゴムで育つ
たコブシの苗
木、八本を記
念植樹した。

横浜ゴム新城工場新入社員研修



四月七日、四谷の千枚田において横浜ゴム新城工場新入社員三十七名(幹部社員十五名、総勢五十二名)の社員研修が行われた。

九時三十分、現地に到着した社員は市鳳来総合支所 内藤地域整備課長の歓迎の挨拶と森本副工場長の挨拶の後、小山舜二が棚田を守る厳しい現実、自然、文化、歴史などを交えた説明を高低差二百メートルの「ふれあい広場」まで案内した。



午前中は、高橋庄一顧問の総指揮のもと、七班に編成された新社員は各班長と保存会、お助け隊(十名)と共に、ふれあい広場や隣接地の耕作放棄地の環境整備に汗を流した。



昼食・交流会は松下誠事務局の軽快な進行で始まった。昼食前に穂積市長の全国から新境地、新城市の企業で働いていただくフレッシュマンにお礼と期待を含めた挨拶の後、「棚田っ娘」(五名)自慢の五平餅と有害駆除で捕獲した猪のシシ汁に舌鼓を打った。

交流会は保存会、棚田っ娘の紹介に続き、新規社員がアサヒスーパードライの空箱に上り、それぞれの出身地、抱負など、自己紹介が行われた。

抱負(夢)は様々で、将来の目標は「金筋入りの帽子を一日も早くかぶりたい」。早く副工場長になる。「工場長になる」。「あいさつのできる人間になる」など、現役班長もオチオチしていられない意欲的な抱負が語られた。班長クラスも「社員としての自覚」、「不況のない、安定した会社であり、真面目に働けば、よい家庭が築けられる」。など、経験を踏まえた力強い助言があった。



帰路は沢掃除をしながら千枚田入り口に到着。保存会を代表して横浜ゴムOBの高橋孝行のお礼の言葉でお見送りをした。

連谷お助け隊総会

四月二日、連谷お助け隊は連谷会館を会場に年次総会を開催。開催冒頭に林リーダーの「一年間、ありがとうさま」の挨拶に始まり松下事務局から昨年度事業、会計報告及び本年度事業計画などの報告があり、役員もすべて留任に決まった。席上にはオドブル、刺身、ビール、焼酎などがズラつと並んでの総会であったためか、「アツ」という間にシャンシャンと相成った。隊員は程よく酔いが回るにしたがい「ロレ」も闊達になり、昨年度事業の「ああだった、こうだった。ありやあまなかった、こうせりやあ良かった、今年やあ、こうせまいかん。」などの反省を踏まえた前向きな意見が百出。まとめの最後は、林リーダーの「まあ、みんな、頼まああ、連谷(地域)のためにみんな頑張らまいかん。」の一言で本年の活動目標(連谷お助け隊としての役目)が決まった。

23年度役員

リーダー 林 義明
サブリーダー 原田佳治
サブリーダー 金古浩一
総括チーフ 松下 誠
事業チーフ 小山英樹
広報チーフ 原田英史
顧問
小山舜二 内藤成志 原田英壽
連谷お助け隊メンバー
総勢 26名

お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」の実施について

東日本大震災を鑑み、イベントを自粛すべきか否か議論したが、四谷の千枚田においても明治三十七年の山崩れで十軒、十一人の尊い人命を失い、また、約二百六十年前には山崩れの頻発から集落全戸が集団移転した。など、厳しい過去から「千枚田を守り抜いた、偉大なる先人たちへの鎮魂の灯火」お田植え感謝祭として昨年まで実施してきたことから本年も六月四日(土)、千五百本のロウソクに鎮魂の祈りを込め、被災地の更なる復興を願い、厳粛に行うことになりました。

主催 連谷お助け隊

東日本大震災復興のため鞍掛山麓千枚田保存会、連谷お助け隊は義援金として、それぞれ協力しました。

生物多様性研修

愛知県農林水産部は各種農林水産施策の円滑な推進にあたり必要な生物多様性の保全に係わる実践的知識・技術を習得させることを目的に合同職場研修会を五月十八日(農作業体験)、十九日(生きもの調査・生物多様性を学ぶ)の二日間「四谷の千枚田」で小山舜二(ふるさと指導員)を講師に行われる。

大日さまが一般拝観できます

「阿弥陀如来像」が大林の愛宕さま社の拝殿に安置されているもの一般拝観ができなかった。檀信徒はより多くの方々の拝観を願い、社の前面を格子づくりに改築。四月十日に落成、拝観に至った。



この、大日さまは慶安元年、後ろ山(大代集落)にあった大日堂の火災により、黒こげとなった大日如来像の身代わりとして阿弥陀如来像が田楽の守護に迎えられ、大代、大林の田楽衆たちにより継承されてきたが、日中戦争により後継者不足もあって昭和十四年、大林の来宝寺で

奉納されたのを最後に四百三十年余続いた田楽も幕を閉じた。

私たちが子供の頃から大日さま(大日如来像)と思いこんできた仏像は胎内墨書から阿弥陀如来像であり、正和三年(1314年)、鎌倉中期の作であることが鑑定され、平成九年(旧)鳳来町文化財指定を受けた。

情報

四谷の千枚田はゴールデンウィーク当初から代かきに始まり、五月上旬には田植えが行われ、下旬には「千枚の水鏡」が見られます。
田植え

① 豊橋調理製菓専門学校は四谷の千枚田を実習田に、田植えから収穫までを実践、食の原点である米作りを通して食農を学び、学園祭などで成果発表や収穫米の試食(五平餅、おにぎり等)を行い、一般市民や父兄に好評を得ている。その、一環として五月十二日(木)、学生による田植えが行われる。

② 五月十八日(水)、連谷小学校の田植えが行われる。

五日の「代かき」には、棚田っ娘のおばさんたちが昼食においしい五平餅を作ってくれるそうで、五名の児童は大変楽しみにしている。

行 平成二十三年四月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二